ヤマハUF-19F

2026/11/14掲載

売却価格：**48**万円

湾内・沿岸の釣行に最適！4スト30馬力＆アルミ船台付きのUF-19F



基本情報

船種	ヤマハ UF-19F (サイズ：19ft)		
サイズ(船検証)	全長：5.09m　全幅：1.74m　全深：0.79m		
進水年月日	1981(昭和56)年2月	**製造年式**	ー
航行区域	限定沿海	**定員**	5人
船底塗装歴	あり	**次回船検**	中間検査(2029年03月14日)
清水タンク容量	ー	**保管状態**	陸上
取材	あり	**出品エリア**	神奈川(関東)

エンジン関連

メーカー	ヤマハ熊本プロダクツ（株）	**エンジン型式**	6BTK
燃料種類	４ストロークガソリン	**搭載数**	1基
船検証記載馬力	30.0馬力　/　6,000rpm(回転数)	**推進機器種類**	船外機
燃費/時間当り(参考)	ー	**燃料タンク容量**	約60リットル

※上記に表示されたモデル名・サイズ年式・エンジン仕様・エンジン馬力・燃料種類・速度・燃費などの数値は、中古艇ドットコムで確認を取ったものではありません。オーナー様からいただいた情報を基に記載しておりますが、オーナー様の記憶違いや勘違いの可能性もありますので、あくまでも、参考までにご覧いただき、最終的には自己判断にてご購入をお決め下さい。
※使用時間は、メーターの表示時間を記載しております。あくまでもメータの表示時間ですので、実際の使用時間を補償するものではありません。
※巡行速度・最高速度に関しては、オーナー様からお聞きした速度を記載しておりますが、オーナー様の記憶違いや、船の状態により記載されたスピードが出ない可能性もあります。あくまでも参考までにご覧下さい。燃費やタンク容量などの数値に関しても同様です。

備品情報

航海計器
・GPS魚探 1
HE-701GP-Di

コメント

昭和56年（1981年）2月新造進水登録の「ヤマハ UF-19F」のご紹介です。
和船ベースの使い勝手に優れた19ftセンターコンソールモデルで、立ち上がりの高いバウ（船首）とフルオープンのデッキレイアウトを組み合わせた実用性の高い船型となっており、2名程度でのチョイ釣りや沿岸でのフィッシングにちょうど良いサイズ感です。
オーナー様のお話によりますと、船底のキール構造によって停船時の横揺れや波当たりが抑えられており、落ち着いて釣りが楽しめるとのことです。

船尾には2019年5月製造のヤマハ製4ストローク30馬力船外機「F30BETL（型式：6BTK）」が搭載されており（アワーメーター非搭載のため使用時間は不明）、オーナー様のお話によりますと、定期的なオイル・プラグ・アノード交換に加え、使用後には毎回フラッシングを実施されてきたとのことです。
また、直近では2026年8月にマリン専門業者にてエンジンオイル・ギヤオイル、各種フィルター、スパークプラグ、サーモスタット、ウォーターポンプリペアーキット、アノード等の消耗品交換が行われています。燃費面では、1日の釣行でガソリン消費量は約20Lほどとのことです。

装備面では、コンソールにHONDEX製GPS魚探「HE-701GP-Di」を備え、トランサム左舷側にはオーナー様お手製のステンレス製振動子マウント（手動昇降式）が取り付けられています。
このほか、バウ側の自作バーに設置されたアンカーローラーや前後各所のロッドホルダー、現在は20L燃料タンク2個の収納スペースとして活用されているイケス（スカッパー埋め処理済とのこと）など、オーナー様がご自身の釣行スタイルに合わせて工夫された装備が備わっています。
また、ファクトリーゼロ製のアルミ製タイヤ付き船台（ボートランチャー／公道走行不可）に架載されており、平坦な場所であれば大人2名で移動させることも可能とのことです。

進水から年数を重ねていることもあり、ハルやガンネルの退色・擦れキズ、船底の塗り重ねやキール付け根の補修跡、アクリル風防の経年劣化やハンドルのやや重めな操作感（オーナー様談）など年式相応の使用感は各所に見受けられますが、これまでの整備履歴や各部の状態をご確認のうえ、実釣用のベース艇としてご検討いただければ幸いです。

この艇は、神奈川県横須賀市の保管施設に陸上保管しております。
ご見学の際は、必ずオーナー様の立会いが必要となりますので、事前に必ずお申し出をお願いします。
なお、天候及び海上の状況により試乗出来ない場合もありますので、ご了承下さい。
また、ご見学（試乗・海上確認等）に伴う船体の上下架に際しましては、上下架料金として3,150円をご負担いただきます（※ご成約・ご購入いただいた場合には、お支払いいただいた上下架料金を売買代金の一部として充当し、売却金額より差し引かせていただきます。また、オーナー様の釣行予定と日程が重なった場合には、上下架料金は不要とのことです）

外観全体

和船ベースの使い勝手に優れた19ftセンターコンソールモデル「ヤマハ UF-19F（検査手帳型式：U-19F）」の外観全体です。
取り回しの良いコンパクトな船体サイズに、立ち上がりの高いバウ（船首）とフルオープンのデッキレイアウトを組み合わせた、実用性の高いフォルムとなっています。
船体中央にはアクリル風防と航海灯マストを備えたセンターコンソールを配置し、その前方には大型の収納ボックス（イケス兼用スペース）がレイアウトされています。
オーナー様のお話によりますと、2名での釣行にちょうど良いサイズ感であり、波当たりや横揺れも抑えられているため快適な釣りが楽しめるとのことです。
なお、現在はタイヤ付きの船台（トレーラー）に架載されており、平坦な場所であれば大人2名で移動させることも可能とのことです。
また、トランサム左舷側には、オーナー様お手製のステンレス製・魚探振動子マウント（手動昇降式）が取り付けられています。

ハル周り

昭和56年（1981年）進水という船齢に伴い、ハル側面には全体的なゲルコートの退色（アイボリー調への経年変色）やツヤ引け、雨垂れ汚れなど年式相応の使用感が見受けられます。
両舷のバウ側には船名「CUT MASTER」のステッカーおよび旧ステッカーの剥がし跡・日焼け跡が確認でき、右舷バウ側上部や左舷中央のエッジ部などには、離着岸時の擦れによるゲルコートの削れ（小キズ・表面の欠け）が数箇所点在しています。

また、左舷トランサム角付近には塗装による補修跡が見受けられ、トランサム右舷側には金属製プレートによる補強跡が確認できます。

ガンネル周り

バウ（船首）から左右両舷、トランサム角部にかけて一周しっかりと装着されており、取材時の目視確認の範囲におきましては、ラバー部分の大きな千切れや脱落といった致命的な破損は見受けられません。
一方で、昭和56年（1981年）進水という船齢および海上での実釣使用に伴い、アルミ枠の擦れキズや塩分による白サビ・腐食痕、シーリング材の劣化・汚れなど年式相応の経年感が見られます。また、ガンネル上部（ブルワーク天板付近）のブルー塗装面には、岸壁や他船との接触に伴う塗装の剥がれや擦れ跡が複数箇所に確認でき、トランサム両舷コーナー部には塗装による補修跡が見受けられます。
美観面での使用感はありますが、防舷材としての基本的な形状は保たれており、実用上問題なくご使用いただける状態です。

船底周り

船底は、センターのキールおよび左右のフィン（ストレーキ）が船首側から船尾にかけて伸びた、和船ベースならではの安定性を重視した船型となっています。
オーナー様のお話によりますと、この船底のキール構造によって停船時の横揺れが抑えられており、釣りをしていても安定感があるとのことです。
撮影時は陸上保管用のタイヤ付き船台に架載されており、船底全体にはブラック系の船底塗料が塗装された状態です。
オーナー様によりますと、直近では2026年11月にご自身で船底塗装を施されたとのことですが、長年の使用に伴う塗膜の重なりや、船台との接触部・着底による擦れ、部分的な塗装の剥がれなど、年式相応の経年感が見受けられます。
また、オーナー様からのお話では、船体中央付近のイケスに通常備わっているスカッパー（排水口）を埋める処理を行われているとのことです。
船底中央部のキール付け根付近には、過去の擦れや損傷に対するFRP・パテ等による補修跡（および一部クラック状の経年痕）が複数箇所確認できます。取材時の目視確認の範囲におきましては、船底からの水漏れ等は見受けられませんでしたが、年式相応の補修歴・使用感のある状態ですので、ご見学時に現物をご確認いただくことをお勧めいたします。

デッキ周り

バウ（船首）からスターン（船尾）までフラットに移動しやすい、フルオープンレイアウトのデッキ周りです。船首の立ち上がりが高く、ブルワークにも適度な深さがあるため、19ftクラスながら実釣時の安心感と作業スペースがしっかりと確保されています。
バウデッキ先端には係船用のクリートを備え、そのすぐ後方では両舷に渡した木製の横桟（バー）にアンカーローラーが設置されています。
オーナー様のお話によりますと、このローラーによってアンカーの上げ下げが楽に行えるとのことです。
バウロッカー内にはライフジャケットやブイ、ロープなどの備品・釣行用品が収納されています。

センターコンソール前方には、イグルー（igloo）製の大型クーラーボックスが設置されており（側面の割れやヒンジ部のサビといった経年ダメージが見受けられます）、現在はロープやバケツ等の収納スペースとして活用されています。
そのすぐ後ろ（コンソール直前）の床面ハッチが本来のイケススペースとなりますが、オーナー様のお話によりますと、遠征・長距離釣行に備えて20Lの燃料タンクを2個収納できるよう活用されているとのことです。

船齢に伴い、デッキ全体にはノンスリップ面の薄汚れや塗装の退色・部分的な剥がれ、金物類のサビ、収納庫ハッチ裏の汚れなど年式相応の経年感が見受けられますが、撮影時にデッキ上を歩いた限りでは、床面の著しいフワつき（軟化）等は感じられず、実釣用としてお使いいただけるコンディションだと思います。

操船席周り

船体中央に配置されたセンターコンソール仕様の操船席周りです。
ステンレス製のコンソールハンドレールとアクリル風防を備えており、コンソール天板の右側にはHONDEX（ホンデックス）製GPS魚探「HE-701GP-Di」が設置されています。
操舵系はヤマハ製3本スポークのステアリングホイールと、左舷側面にマウントされたヤマハ純正リモコンボックス「703 Remote Control」（キルスイッチコード付）で構成されています。
なお、オーナー様のお話によりますと、ハンドルの操作感はやや重めとのことです。

昭和56年（1981年）進水という船齢および海上での実釣使用に伴い、アクリル風防には経年による細かなひび割れ（クラック）や白濁、養生シートの貼付が見受けられます。
また、コンソール背面（操船者側下部）の物入れ扉周辺には雨水対策としてビニールシートと養生テープが施されており、扉の蝶番や掛け金などの金物類にはサビや使用感が見られます。
全体として年式相応の経年感やオーナー様による実用的な対策跡はありますが、操船に必要な基本装備は一通り揃った状態です。

エンジン周り

ヤマハ製の4ストローク30馬力船外機「F30BETL（製造者型式：6BTK／連続最大出力：22.10kW・30.0PS／6,000rpm）」が搭載されています。
コーションプレートの製造年月欄には「19.05」（2019年5月製造）の刻印が確認でき、アワーメーター非搭載のため使用時間は不明となります。
なお、オーナー様のお話によりますと、1日釣りをしてもガソリン消費量は約20Lほどで遊べるとのことで、4ストロークならではの経済性も魅力です。

トップカウル（エンジンカバー）上部には紫外線によるクリア層の剥がれや色あせが見受けられますが、割れ等の大きな破損は見当たりません。
ロアケース（ギアケース）やスケグ、3枚羽根アルミプロペラには目立つ欠けや曲がりはなく、全体的にきれいな状態が保たれています。
ブラケットやチルトシリンダー周辺には一部塩分の付着や白サビが見られるものの、カウル内部のエンジン本体はオイル滲みや顕著な腐食も見当たらず、配線やホース類も含めて清潔感のあるコンディションが維持されています。
また、オーナー様によりますと、釣行後の使用時には必ずエンジンのフラッシング（真水洗浄）を実施されているとのことです。

さらに、定期的なエンジンオイル・オイルフィルター・ギヤオイルの交換をはじめ、2020年4月（マリン専門業者）・2022年6月・2024年10月のアノード（ジンク）交換、2023年7月・2024年10月のスパークプラグ交換、2024年10月のインペラー交換（マリン専門業者）など、継続的に手を入れて管理されてきた経緯がうかがえます。

直近の2026年8月27日には、マリン専門業者にて以下の消耗品一式の交換整備が実施された請求書が確認できます。
エンジンオイル・ギヤオイル交換
オイルフィルター（エレメントオイルクリーナー）・燃料フィルター（エレメントフィルター）交換
スパークプラグ（3本）交換
サーモスタット・ガスケットカバー交換
ウォーターポンプリペアーキット交換
アノード（4個）交換

付属品

本艇が架載されている、ファクトリーゼロ（FACTORY ZERO）製のアルミフレーム・タイヤ付き船台（ボートランチャー／ヤードトレーラー）です。
サビに強い軽量なアルミ角パイプフレームを採用しており、前輪には操舵用T字ハンドル付きのダブルタイヤ、後輪は船尾側の荷重を支える大径ワイドタイヤを左右各1輪備えた4輪仕様となっています。
なお、ナンバープレートおよび灯火類を備えない構内・スロープ移動および陸上保管用の船台となりますので、公道での牽引走行はできません。

お問い合わせ先ご質問や見学のお申込は掲載会社までご連絡ください！



[神奈川エリア]　伊佐(いさ)

ご覧いただく皆さまに、安心してお取引いただけるよう丁寧な対応を心がけています。 船の状態や特徴など、気になることがあればいつでもご相談ください。 売却・購入をお考えのオーナーさまからのご連絡、心よりお待ちしております。

070-6916-0741

s-isa@e-fran.jp